



消防だより

問 消防本部警防課 ☎22-0337 FAX22-9427

9月9日は「救急の日」

救急医療および救急業務への正しい理解と認識を深めていただくために、毎年9月9日を「救急の日」として、救急医療の普及啓発活動が全国的に実施されます。

急病や交通事故などの救急事故が発生したとき、救急隊が現場に到着するまでの間、現場に居合わせた人が、速やかに適切な応急処置を実施することで、命を救える可能性が高くなります。応急手当に関する正しい知識と技術を身につけ、尊い命を救いましょう。

消防本部では、救命講習を実施しています。応急手当の方法や救命講習会などについて、彦根市ホームページを確認いただくか、最寄りの消防署までお問い合わせください。

また、救急の日に合わせて、応急手当の普及啓発を目的に「救急フェア」を次のとおり開催します。

📅 9月1日(金)～同11日(月) 各日9:30～20:00

📍 ペイシア彦根(馬場二丁目)

問 消防本部警防課 ☎22-0337 FAX22-9427

【HP 番号:1479】

火災・救助・救急事故の発生状況(彦根市・犬上郡)

令和5年上半年(1月1日～6月30日まで)

火災	救助	救急
火災件数 16	出場件数 29	出場件数 3,105
建物火災 9	火災 1	火災 9
車両火災 0	交通事故 17	自然災害 0
林野火災 1	水難事故 0	水難 0
その他の火災 6	自然災害 0	交通事故 227
主な火災原因	機械事故 1	労働災害 26
たばこ 3	建物事故 0	運動競技 18
こんろ 1	ガス酸欠事故 0	一般負傷 467
ストーブ 1	破裂事故 0	加害 12
電気器具 1	その他の事故 10	自損事故 29
電灯・電話などの配線 1	活動件数 17	急病 2,186
その他(調査中含む) 9	救助人員 19	その他 131
死者 0	※表中の数値は(件)、死者・負傷者・救助人員・搬送人員は(人)	搬送件数 2,723
負傷者 2		搬送人員 2,746

消防本部では、対応能力、接遇能力の向上を目的に、救急活動状況を録音させていただいております。ご理解とご協力をお願いします。

チケット情報

ひこね市文化プラザ

11月12日(日) 9:30(9:00～受付開始)

第14回 直弼杯将棋大会 出場者募集

〈場所〉彦根商工会議所(中央町)4階大ホール

〈クラス・定員〉級・段に応じた一般の部4クラス(A:3段以上と希望者、B:2段と初段、C:1級と2級、D:3級以下)、小学生以下の部2クラス(E:5級以下、F:10級以下【初心者】)、合計120人(先着順)(アマチュアに限る。小学生以下でも一般の部に申込可。A・E以外のクラスで、過去の大会での優勝・準優勝者は、同一クラスでの参加は不可)
〈競技形式〉予選は各クラスによるリーグ戦(基本4人)を行い、予選通過者による決勝トーナメントを行います(詳細は当日説明)。

〈費用〉一般:1,500円、中学生以下:1,000円 〈申込期間〉9月12日(火)～10月3日(火)【必着】※はがきに①住所・郵便番号②氏名③フリガナ④年齢(小・中学生は学校名・学年も)⑤電話番号⑥参加クラスを書いて「ひこね市文化プラザ直弼杯将棋大会事務局」あて(〒522-0055野瀬町187-4)にお送りください。はがき1枚につき参加者は1人まで。

11月25日(土) 11:00/14:00/17:00 グランドホール

しまじろうコンサート

しまじろうと きらきらぼしの クリスマス

指定 【9月23日(土)9:00～友の会予約開始】※3歳未満ひざ上無料(保護者1名につきお子さま1名まで。席が必要な場合は有料)
会館特別価格:3,480円
【9月30日(土)9:00～一般予約開始】
会館特別価格:3,480円



© Benesse Corporation 1988-2023 / しまじろう

12月9日(土) 14:00 エコーホール

彦根落語会 おもしろハッピー落語会in彦根

〈出演〉桂雀太、桂二葉、桂九ノ一、桂源太 三味線・豊田か美子

指定 【9月9日(土)9:00～予約開始】友の会:2,500円

【9月16日(土)9:00～予約開始】一般:3,000円

高齢者(65歳以上)・障がい者・学生:2,700円

今大阪で一番アツい落語ユニットが彦根に初上陸!気の合うメンバーによる「面白くて、お客をハッピーにする」落語会。お聞き逃しなく!

申込・お問い合わせ先 チケットセンター ☎27-5200(9:00～19:00)
チケットはインターネットでもご購入いただけます。https://bunpla.jp/
9月の休館日:4日月、11日月、19日(火)、25日(月)

【ひこね市文化プラザ各公演 発売初日の予約の取扱い】
※電話予約・インターネット予約のみの受付となります。
※窓口でのチケット引き取り・販売は翌開館日から承ります。

みずほ文化センター

9月23日(土・祝) 14:00 多目的ホール

滋賀県アートコラボレーション事業「森の音楽会」

自由 【好評発売中】 ※3歳以上有料
一般 前売:2,000円 当日:2,500円
青少年(24歳以下) 前売:1,000円 当日:1,500円

NHK Eテレ「ピタゴラスイッチ」でもお馴染みで、あらゆる層から歓迎されるインストゥルメンタル・バンド「栗コーダーカルテット」、NHKみんなのうた「ウメボシジンセイ」の歌と演奏(ギター)などでもお馴染みの「ビューティフルハミングバード」、優れた音楽性・パフォーマンス性で高い評価を受ける手作り竹楽器の演奏集団「東京楽竹団」が共演する今回だけの特別な音楽会です。

11月11日(土) 14:00 多目的ホール

香西かおり コンサート

指定 【9月2日(土)発売

(窓口9:00～、電話13:00～)】

前売:3,000円 当日:3,500円

1988年レコード・デビュー以来、「流恋草」「無言坂」など数々のヒット曲を出し続ける、ポップスも歌える実力派演歌歌手・香西かおりのコンサート。



申込・お問い合わせ先
みずほ文化センター ☎43-8111(9:00～17:00)
9月の休館日:5日(火)、12日(火)、19日(火)、24日(日)、26日(火)

◎表記の価格は全て税込価格です。
◎入場制限のある公演は、託児サービスを実施します。子ども1人1,000円。各ホールまで事前予約が必要です。

彦根城博物館 ☎22-6100 FAX22-6520

https://hikone-castle-museum.jp/

開館時間 8:30～17:00(入館は16:30まで)



博物館だより

9月1日(金)～10月4日(水)

「関東大震災から100年 災害と井伊家伝来資料」

大正12年(1923)9月1日、東京や横浜などに甚大な被害をもたらした関東大震災。これによって、東京本邸にあった井伊家伝来の美術品と古文書の多くが、火災によって失われてしまいました。関東大震災を中心に、井伊家伝来資料に関わる災害の歴史と、いかにしてこれらが守り伝えられてきたかを振り返ります。

■スライドトーク

【日時】9月2日(土)14:00～(30分程度)

【講師】当館学芸員 【場所】講堂

※無料(観覧料は別途必要)

※当日受付(先着50人、受付は13:30～)



▲関東大震災罹災品 湖東焼

■関連講演会

「災害と井伊家伝来資料」

【日時】9月16日(土)14:00～15:30

【講師】当館学芸員 【場所】講堂

※資料代100円(観覧料は別途必要)

※当日受付(先着50人、受付は13:30～)

特別展「大名と菓子一百菓繚乱」 記念講演会「江戸時代の菓子文化」

【日時】10月21日(土)14:00～15:30

【講師】中山圭子氏(虎屋特別理事・虎屋文庫主席研究員)

【場所】講堂

【定員】50人 ※事前申込制

【受講料】400円

【申込期間】9月15日(金)～10月6日(金)

(郵送の場合は当日消印有効)

【申込方法】

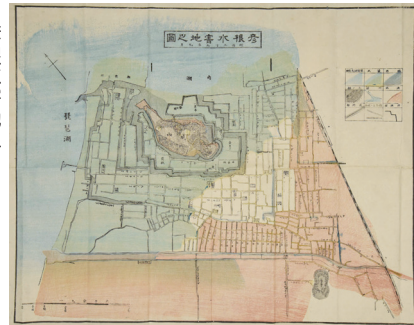
▶彦根市電子申請サービスから申し込み

▶往復はがきの往信の裏面に①住所②氏名③電話番号を、返信の宛名欄に①住所②氏名を書いて「特別展講演会」係へ郵送(〒522-0061金亀町1-1、1人1通)

※特別展「大名と菓子一百菓繚乱」は10月7日(土)から開催します。

その他10月に開催するイベントの情報は、p.13に掲載しています。

▶彦根水害地之図
(平田町町代中村家文書)



琵琶湖畔の井伊家屋敷、千松館(江戸時代の松原下屋敷、現在の御浜御殿)も床上浸水し、多数の伝来資料を保管する4棟の土蔵も、1階が水に浸かってしまっています。この時の様子を記した千松館の記録は残されていませんが、東京の井伊家

井伊家伝来の美術品や古文書は、過去、複数にわたって罹災したことが分かっています。明治29年(1896)の琵琶湖大洪水も、これらが被害を受けた災害のひとつです。琵琶湖大洪水は、折からの長雨と9月3日、11日の記録的な大雨により、湖の水位が3メートル以上上昇、県下の湖岸域が広範囲にわたって浸水し、死傷者と膨大な家屋損壊が発生した未曾有の水害です。彦根においても、芹川の堤防の決壊などによって、湖岸の村々と市街地の大部分が床上まで浸水しました。この被害を表した「彦根水害地之図」(写真)を見ると、市街地の大半が浸水と洪水を示す黄緑色と赤茶色になっています。人々は船で移動し、家屋の2階から出入りする状態となりました。

本邸の家職が千松館の家職に宛てた書簡によると、以下のとおり、千松館の家職が懸命に土蔵の対応にあたっていたことが分かります。まず、1階の資料を3日間徹夜で2階に移動しましたが、更に増水が見込まれたため、12日に初代直政と2代直孝の甲冑、指料などを取り出してより安全な者の元に預けました。その後、土蔵内の浸水が60センチにも達し、今後、強風となった場合、2階に重心が偏った土蔵が風に煽られて傾く恐れがあるとの判断から、13日に城山の三重櫓に伝来品を移動させることを決断し、17日までに全てを移し終えたといえます。このように、一帯が冠水する中、危険を顧みず救助にあたったことで、多くの資料が水没を免れたと考えられます。一方で水に浸かった資料もあったとみられ、冠水した多数の古文書の中には、乾燥に努めたものの改善せず、やむなく廃棄したものもあったと伝えられます。当館には、この時に罹災したと考えられる、和紙が固着して開くことができない古文書が数多く保管されています。4万5千件におよぶ井伊家資料が今にまで伝わってきた背景には、この水害のように、資料を災害から守った人びとの努力があったのです。

【彦根城博物館学芸員 茨木恵美】

よきの玉手箱

博物館からのメッセージ

第324回